

## 家庭科 授業改善推進プラン

学年	児童の実態
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新しい教科に関心をもち自分の生活体験を振り返り活かしつつ、縫い物や調理の実践的学習活動に楽しんで取り組む児童が多い。</li> <li>○ 知識技能の習得に対しての関心はあるが、技能面での個人差については個別指導や児童同士の学び合いを通して、十分に行うことが課題である。</li> </ul>
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 衣食住や家族の生活などについて関心をもち、体験と結びつけながら知識を深めていこうとする児童が多い。</li> <li>○ 洗濯や調理などの実践的学習活動には多くの児童が積極的に取り組んでいる。学び合いの活動では取り組み方に個人差があるため、学びの深め方を身に着けることが課題である。</li> </ul>

## ☆今年度の教科の重点

<第5学年>

◎ 生活を見つめ、できることを増やしていこう！

家庭生活を大切にすることを育み、日常生活に必用な基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指す。

<第6学年>

◎ くふうして生活に生かそう！

衣食住などに関する知識と技能を身に付け、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育て、よりよい生活者を目指す。

## ☆授業改善の具体例

<第5・6学年共通>

- 自分の身近な生活に目を向けさせ、家庭での取材や調査・実践を通して、家族の一員である自分にできることを具体的に考える力を養う。
- 考えを深め広げるために自力から学び合いの場を設定する。自分の考えをしっかりとめさせ、考えを交流させることを通して学習の充実を図る。
- 学習したこと（講義・実習）をノートやワークシートにきちんと記録しまとめさせ、振り返らせる。
- 個人差に配慮した指導法を工夫する。（ペア学習・グループ学習・個別指導を使い分ける。）
- 既習学習との関連・中学校との関連を意識し、A 家庭生活と家族 B 日常の食事と調理の基礎 C 快適な衣服と住まい D 身近な消費生活と環境 の4つに整理された同一内容の系統性や連続性を考えて指導にあたる。

## ☆評価・改善

<第5学年>

- 簡単な縫い物や包丁の使い方など基礎的な理解の定着を図ったことで、日常生活に必要な知識技能を身に付けることができた。
- ▲ 課題を正確に理解する（話をしっかり聴く）態度に個人差があり、随時指導の必要がある。

<第6学年>

- 生活リズムの振り返り、洗濯実習や調理実習の経験を通して、家族の一員として実践することを増やすことができた。
- ▲ 所属するさまざまなコミュニティで、主体的な生活者を目指そうとする意識を高める必要がある。